

神戸高、兵庫高 野球定期戦 3年ぶり 伝統の勝負



曲走路

○…大正時代から続く神戸高と兵庫高の春季定期戦が10日、神戸市灘区の神戸高で開かれた。2年連続で雨天中止だったメイン競技の野球は3年ぶりに開催され、スタンドでは両校の全校生徒やOBが応援し、選手たちは母校の誇りを胸に熱戦を繰り広げた。写真。

定期戦は、両校の前身である神戸一中(神戸高)と神戸二中(兵庫高)の野球部が対戦したのが始まりで、1914(大正

3)年ごろにスタート。67年から他競技を含めた総合定期戦になり、春と秋に行われている。

午前中にサッカーなど男女6競技があり、3勝3敗で野球を迎えた。試合は神戸高が二回表に先制したが、その裏に兵庫高が5点を奪って逆転。兵庫高が7-3で勝利し、総合優勝した。

兵庫高の木谷拓樹主将は「みんなの応援のおかげで勝てた」と喜び、神戸高の三木翔太主将は「大勢の前で試合ができて楽しかった」と振り返った。(今福寛子)